

第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2016年6月11日(土)～12日(日)

@浅草ビューホテル、台東区立浅草公会堂、台東区民会館、東京都立産業貿易センター台東館

プレコンgresワークショップ 24	
企画名	臨床現場の多職種連携能力をどのように評価できるか?
日時	2016年6月10日(金) 19:00～20:30
会場	第13会場 (台東区民会館 9階 ホール(2))
企画責任者	春田淳志 (筑波大学附属病院)
定員	30名
開催の目的・概要	
<p><b>【開催の目的】</b></p> <p>日本における多職種連携コンピテンシーが開発された。コンピテンシーとは目指すべき能力であり、この能力をもとに教育を組み立てるコンピテンシー基盤型教育が医学教育の潮流である。今回開発された多職種連携コンピテンシーは、「患者・利用者・家族・コミュニティ中心」、「職種間コミュニケーション」のコアとなる2つのドメイン、「職種としての役割を全うする」、「自職種を省みる」、「他職種を理解する」、「関係性に働きかける」の4つのドメインの計6つから構成される。保健医療福祉の多職種はそれぞれの専門性を活かした視点を持っているがゆえに、各専門職が独立して掲げる目標設定が異なる可能性がある。だからこそ患者・利用者・家族・コミュニティ中心に重要な関心事/課題に焦点を当て、共通の目標を設定することは、多職種連携の欠くことができない要素である。これを達成するためには職種背景が異なることに配慮し、互いから、互いについて職種としての役割、知識、意見、価値観を伝え合うことが必要であり、これが職種間コミュニケーションのドメインに相当する。他の4つのドメインはコアとなる能力を支え、相互に関連し合っている能力である。本ワークショップの目的は、コンピテンシーを評価する方法について理解を深めることである。先行文献の Feasibility study(Desiree Lie,2015)を一部改編したスケジュールでシナリオに基づいた模擬カンファレンスを実施する。ワークショップ参加者は、カンファレンス参加者と評価者に分かれる。評価者は模擬カンファレンスを観察し、多職種連携コンピテンシーをもとに開発した評価票を通じてカンファレンス参加者の様子を評価する。これらのワークを通じて多職種連携コンピテンシーをもとにした学びを共有し、内容妥当性や現場での転用性についてディスカッションする。これらのプロセスを通じて連携コンピテンシーを評価するインパクトを体験してもらうワークショップである。</p>	